「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「ティンガティンガ」って知ってる？パート②～

前回紹介したSHOGEN（ショーゲン）さん・・・
「ティンガティンガ」というアフリカ発祥のペンキアート家です。
単身タンザニアに渡り、ブンジュ村で生活しながら、絵を学ぶと同時に、村長や村人との交流により**「人の生き方の本質」**を学んだそうです。
実は、このブンジュ村こそ、そこに住む人たちのずっと幸せが続いている村だったのです。
今回は、このSHOGENさんのブンジュ村でのお話を紹介します。

SHOGENさんが同居させてもらうことになった人口200人のブンジュ村の家の近所に、ザイちゃんという３歳の女の子がいました。ある日、ザイちゃんはお父さんに「流れ星をつかまえに行きたい」と言いました。もし、あなたが３歳の子から「流れ星をつかまえに行きたい」と言われたらどうしますか？ブンジュ村の人たちは・・・・・・・・・・**全員で行くんだとか。**
その日もＩ時間半くらい探して帰ってきました。またその翌日もお父さんたちが行こうとするのでSHOGENさんは、やめさせようと「流れ星なんてつかまえられるわけがない」と伝えたそうです。すると・・・
「ショーゲン、お前は、流れ星をつかまえに行ったことがあるからそう言ってるのか？」
と聞かれた。「行ったことはない」と言うと、
「行ったことのないやつに言われたくない。お前にはロマンとか夢はないのか？」と真面目な顔で言われたそうです。
「ショーゲンは、いつも無駄を省いて、効率よく生きようとしているけど、無駄とか、しょうもないことの中に、幸せっていうものがあるのに。」
さらに追い打ちをかけるように・・・
「人はいかに無駄な時間を楽しむのかっていうテーマで生きているんだよ。お前の心のゆとりはどこにあるんだ。お前の幸せはどこに行ったんだ？」と言われたそうです。

でも、これって日本人の感性なんです。ご覧ください→→→→→→→
かつて日本人が無駄を楽しんできた決定的証拠を→→→→→→→→→
芸術家・岡本太郎が**「日本の美の源流」**と称えた約5000年前の縄文土器で火焔土器と言います。火で焦げた部分や吹きこぼれのあとがあるのですが、ここまでくると・・・・・・・・**もう煮炊きには使いにくいでしょ！（笑）**
でも、これぞ、無駄を楽しむ精神の結晶、日本の心の原点だと言ってもいい。
この無駄を楽しむ精神こそが、心にゆとりをもたらしていたのではないでしょうか。
人は心にゆとりがある時は争いませんから。・・・
僕らはお金のために効率をもとめ、他人の目を気にして「いいね」をもとめ続けた結果・・・
一番大事な「心のゆとり（幸せを感じる心）失ってしまったのではないでしょうか。
「今日、誰のために生きる？」～アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く３０の物語～
ひすいこたろう×SHOGEN（廣済堂出版）

そして・・・ブンジュ村の村長は・・・この村に伝わる幸せがずっと続いていく感性は・・・何と・・・・
日本人から教わったというのです！
誰？・・・・なぜ？・・・どういうこと？・・・・気になりますね。またこの通心（信）で紹介しますね。